

チャレンジ・アグリ認証
—基礎課程—
教本テキスト

意匠調整中
— 4 校 —



もくじ

はじめに

学習ノートーコマツナ編ー

- Day 1 初回研修
- Day 2 実技① 畑づくり
- Day 3 実技② 種まき
- Day 4 実技③ 発芽と間引き
- Day 5 実技④ 生育管理①(間引きと追肥①)
- Day 6 実技⑤ 生育管理②(間引きと追肥②)
- Day 7 実技⑥ 収穫してみよう
- Day 8 実技⑦ 製品づくり
- Day 9 実技⑧ 販売してみよう
- Day10 定着研修

学習ノートーミニトマト編ー

- Day 1 初回研修
- Day 2 実技① 畑づくり
- Day 3 実技② 苗植え
- Day 4 実技③ 定植と仕立て
- Day 5 実技④ 生育管理①(支柱たて)
- Day 6 実技⑤ 生育管理②(お手入れ)
- Day 7 実技⑥ 収穫してみよう
- Day 8 実技⑦ 製品づくり
- Day 9 実技⑧ 販売してみよう
- Day10 定着研修

講義ノート

- 1日目 はたらくということ
自分という存在／自己と他者／
はたらくこと・生きるということ／いのちを育てる
健康な暮らしを支える／農業をする上で心がけること
- 2日目 京都の農業を知ろう
コマツナの特徴／ミニトマトの特徴
- 3日目 野菜づくりの環境を知ろう
いろいろな種まき／水やりの方法
- 4日目 植物と土①
野菜づくりに適した環境／種子と発芽
- 5日目 植物と土②
間引き／追肥
- 6日目 いろいろな野菜① ー葉物野菜ー
シュンギク／ミズナ／キャベツ／ブロッコリー
- 7日目 いろいろな野菜② ー果菜類・根菜類ー
収穫のしかた／収穫の際の注意点
- 8日目 商品づくり
洗浄・消毒について／袋づめ
- 9日目 お客様目線にたった販売方法
価格の設定／原産地表示
- 10日目 ふりかえり
食生活と必要な栄養素／健康な日本の食文化

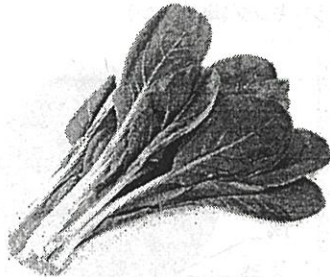
むすびに

コマツナってどんな野菜？

■コマツナの特徴

アブラナ科アブラナ属

小松菜(コマツナ)はチンゲンサイなどと同じアブラナ科アブラナ属の植物です。名前は東京の小松川(江戸川区)に由来、江戸時代に将軍様への献上品として重宝されました。コマツナの旬は冬(12月~3月)ですが、今では各地で通年で出荷されています。



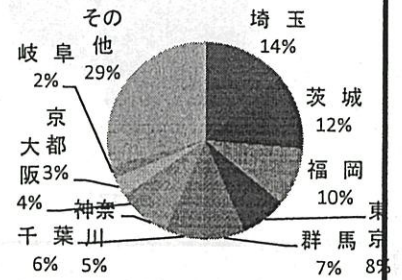
コマツナ

アブラナと同じ黄色の花を咲かせるのじゃ。



平成28年全国のコマツナ生産量ランキング(単位:トン)

順	全国	113,600
1	埼玉	15,700
2	茨城	14,100
3	福岡	10,800
4	東京	8,600
5	群馬	8,140
6	千葉	7,010
7	神奈川	6,100
8	大阪	3,940
9	京都	3,530
10	岐阜	2,320
	その他	33,360



農林水産省 統計データより

コマツナの栽培の流れ

■栽培の時期



ポイント

- ・種まき後、防虫ネットでトンネルをつくる
- ・間引きをかねて収穫する



こんな小さな種からコマツナが育つのじゃな。生育までの流れを頭に入れておくのじゃぞ。



連絡ノートの使い方

この連絡ノートは、「チャレンジ・アグリ認証ー基礎課程ー」の研修生が研修及び実技を効果的に進められるよう、研修生・研修講師・そして支援者の3者が情報を共有するために使用します。この連絡ノートを活用し、効果的に学習を進めてください。

【特徴】

- ・1日の学習内容・研修・実技での生活記録が確認できます。
- ・学習内容を振り返りと学習到達度の確認ができます。
- ・研修生・研修講師・支援者の3者が学習状況を管理できます。

1 Day 研修1日目

研修日: 平成 年 月 日

生活記録

業務前の生活チェック

項目	確認項目	確認結果
遅刻せずに研修会場に着いた。	できた / できなかった	適 / 不適
朝ごはんを食べた。	できた / できなかった	適 / 不適
忘れ物をしていない。	できた / できなかった	適 / 不適
忘れ物した場合 (S/S)	できた / できなかった	適 / 不適

研修記録

カリキュラム

研修内容	研修講師
【午前】	
【午後】	

研修内容の振り返り

本日の主な活動

学習内容	おかげさまで	おかげさまで

研修講師からの連絡事項

支援者からのコメント欄

【生活記録】
業務開始前に、その日の生活チェックをしていただきます。

【研修日誌】
学習内容を研修生自らが記録します。
学習整理と生活管理の意識を醸成します。

【支援者からのコメント欄】
1日の研修ごとに支援者が記入します。
受講態度・定着度等を共有します。

【注意点】

- ・1日の研修終了後は支援者からコメントを記入してもらってください。
- ・各回の記録を欠かさずにつけるようにしてください。

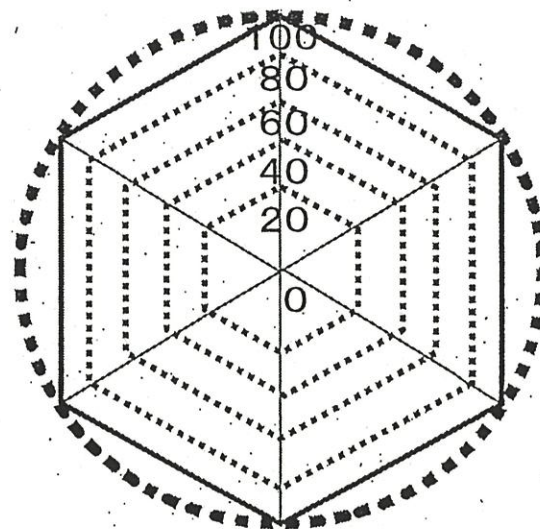
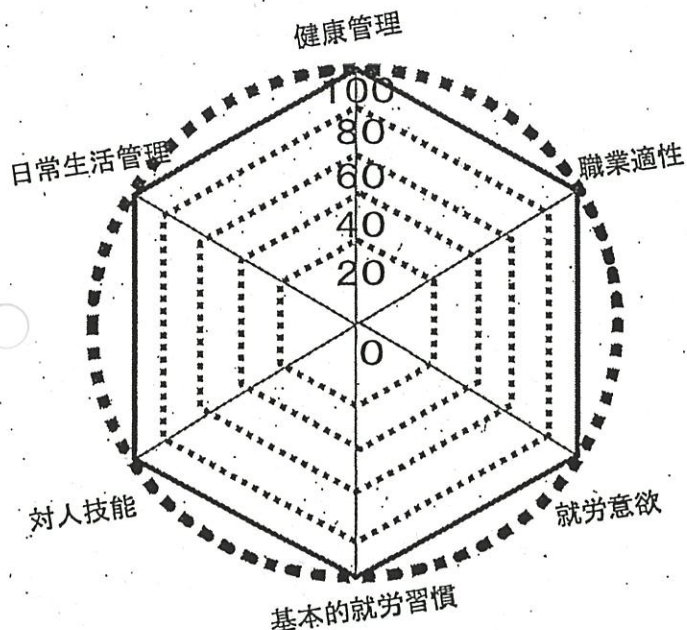
- 連絡ノートは、研修管理や支援者への伝達に使用します。
- 研修期間を通して使うものなので大切に使いましょう。

チャレンジ・アグリ認証 ー基礎課程ー 分析シート

個人特性分析

【レーダーチャート】

100	本人の力で可能
80	声掛けにより可能
60	個別支援や配慮など工夫が必要
40	マンツーマン支援が必要
20	障害の特性上、就労に困難さが伴う



研修前 [総合スコア: 点] 研修後 [総合スコア: 点]

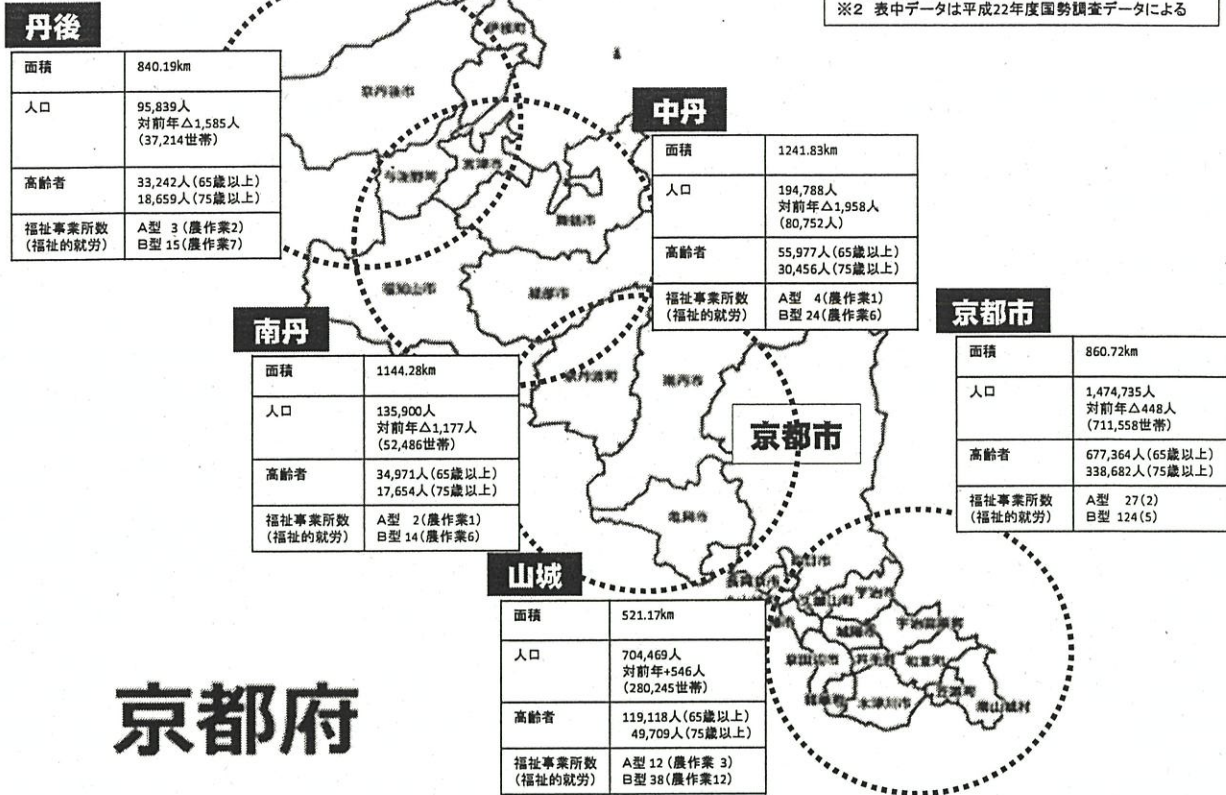
到達度分析

単元	学習項目	到達度判定					
		0%	20%	40%	60%	80%	100%
はたらく分野	自己理解・他者理解						
	就労への態度・関心						
農業分野	農業全般への理解						
	栽培の基礎知識						
	消費者への関心						
生活と暮らし分野	栄養に関する理解						
	食への関心						

総合特性

●地域の構成

※1 福祉事業所数(福祉的就労)
就労継続支援A・B型事業所の合計数
※2 表中データは平成22年度国勢調査データによる



京都府

●地域の特色と農業をとりまく課題

<p>丹後</p> <p>[地域の特色]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期的な人口減少・高齢化 ・海産資源:「海の京都」ブランドと運動 ・伝統産業:「丹後ちりめん」 	<p>中丹</p> <p>[地域の特色]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「山」「川」「海」が域内存在:「森の京都」 ・自動車交通網が整備される
<p>南丹</p> <p>[地域の特色]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田園地、牧用地が多数広がる ・丹波ブランド:黒大豆、栗等の高品質産品 「美山やまざと市」(通年:毎日曜) 	<p>山城</p> <p>[地域の特色]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本を代表する宇治茶産地「お茶の京都」 ・都市的な人口構造(若年人口の増加地域も有) ・地場産業イベント「UJI-CHA Fair」(3月~8月) 「クロスピア市」(通年:日曜)

<農業をとりまく課題>

出所:近畿農政局統計部「2005年農林業センサス結果からみた京都府の農林業」
2015年農林業センサス(京都府)
明日の京都「地域振興計画」

各地域の農林水産業の特徴

京都府では5つの市町が海に面しています。海流の影響や地形の特性から、舞鶴市・京丹後市のズワイガニ、宮津湾のトリガイ、伊根町のブリ、久美浜湾のカキなど、それぞれの地域で特徴のある水産物が漁獲されています。

中丹地域

(福知山市、舞鶴市、綾部市)

北部を流れる由良川沿いを中心に米づくりが盛んです。

また、丹波くりや小豆、紫ずきん、万願寺甘とう、お茶などの京都を代表する特産物の生産や、こだわりの卵や地鶏など養鶏も盛んな地域です。

由良川では、春にはアユ、秋はサケが日本海からのぼってきます。

丹後地域

(宮津市、京丹後市、謝野町、伊根町)

丹後地域は、「丹後産コシヒカリ」に代表されるお米づくりが盛んな地域です。お米の食味ランキングで西日本最多12度の「特A」評価を受けるなど、全国でもトップクラスのおいしいお米の産地です。

また、野菜や果樹などの生産も盛んに行われています。

南丹地域

(亀岡市、南丹市、京丹波町)

京都府内で有数の穀倉地帯であり、黒大豆・小豆のほか、京みず菜、紫ずきん、京壬生菜など「ブランド京野菜」の栽培が盛んです。和牛肥育、酪農などの畜産も盛んな地域です。

また、京都府内有数の林業地帯でもあり、丹波高原周辺は、昔から香りの良い「丹波まつたけ」の産地です。粒が大きく、甘い「丹波くり」なども有名です。

さらに、美山川はおいしいアユがとれることで全国的にも知られています。

京都市・山城地域

(京都市、宇治市、城陽市、向日市、長岡京市、八幡市、京田辺市、木津川市、大山崎町、久御山町、井手町、宇治田原町、笠置町、和束町、精華町、南山城村)

本地域は、京都府の人口の約8割が集まっている地域です。若い担い手が多いのが特徴で、京野菜や花きなど集約型の作物が多く生産されています。また、宇治茶の代表的な産地でもあります。

京都市の北部は、北山杉の表面をなめらかに磨きあげた磨丸太の産地として有名です。

乙訓地域は、竹林が多く、良質なタケノコが生産されています。

鴨川などでは、漁協や府民グループによりアユの遡上を手助けする活動が行われています。



資料 4

京都市農福連携の中期取組方針及びロードマップ（骨子案）

平成30年1月
京都農福・戦略会議

1. 中間運営方針の目的と考え方

- ・ 中間運営方針の想定期間：5年間
- ・ 本方針の位置づけ：戦略的な事業を展開するための行動指針
- ・ 本会議として京都府全体の農福連携の推進に当たっての専門的な意見具申

2. 農福連携の現状と課題 ※現状については、骨子案では省略。

[地域連携]

- ・ 地域毎の課題に対して、地域の対応力が弱くなっている
- ・ 少子高齢化が進むな中で、縦割りでのサービス維持・確保は難しい
- ・ 福祉事業所が近隣農家とうまく協力できていない

[人材育成]

- ・ 障害のある方の就労面でのキャリアアップが見えづらい
- ・ 農業関係企業等に就職できる障害者が極めて少ない
- ・ 福祉事業所における支援員が農業技術を向上させる機会がない

[生産拡大]

- ・ 農産物の販売先が限定されており、大きな収益につながっていない
- ・ 農福連携に関する農業側のメリットが見えづらい
- ・ 十分な耕地面積を確保できていない

3. 中間運営方針で目指す具体的な目標

- ▶ 農福連携を行う事業所の増加
- ▶ 農福連携を通じた工賃向上・就労促進
- ▶ 京のノウフク認証の拡大
- ▶ 地域共生の推進
- ▶ 人材育成

4. 中間運営方針で目指す対応策

[地域連携]

- ・ 京都式農福連携の戦略的な拡大
- ・ 多種多世代が交流する地域共生の取組みの推進
(マルシェをはじめとした地域交流イベントの拡充など)
- ・ 就労継続支援A型事業所や特例子会社を活用した雇用機会の創出
- ・ 市町村との連携事業の実施
- ・ 府民理解の促進 (ワークショップの開催など)

[人材育成]

- ・ チャレンジアグリ認証基礎課程の実施と専門課程の構築
- ・ 農福連携事業所従事者の技術向上支援
- ・ 農福連携事業所への農業系人材の登用促進
- ・ 大学連携の推進 (就労機能性の向上、開発)

[生産拡大]

- ・ 補助制度の活用による生産性拡大の調査・検証
- ・ 「京のノウフク」認証の拡大 (補助部門・製品開発部門等の拡充)
- ・ 農福連携製品の6次産業化・ブランディング支援
- ・ 農業側の需要を踏まえた農作業等のマッチング支援
(京都産農産物の生産調整システムの構築など)
- ・ 産業連携の推進 (林業・水産業・商業・工業など)

5. 工程表 (ロードマップ)

※本日の議論を踏まえ検討